

脳神経疾患研究所最高顧問 吉本氏に瑞宝大綬章



渡邊理事長に叙勲を報告し勲記・勲章を披露する吉本最高顧問(左) = 5月9日(水)

学術、医療に尽力、復興にも貢献

(一財)脳神経疾患研究所の最高顧問を務める元東北大学総長の吉本高志氏(75)は平成30年春の叙勲で、瑞宝大綬章を受けます。高度な教育に尽力し、学術と医療の発展に貢献した功績が認められました。5月8日(火)、宮中で陛下から勲章を賜り、翌9日(水)に総合南東北病院で当財団の渡邊一夫理事長に受章を報告しました。

吉本氏は秋田市出身。昭和43年に東北大学医学部を卒業。医学博士で、専門は脳神経外科学。同大学の医学部脳疾患研究施設長、医学部附属病院長、

医学系研究科長・医学部長を歴任し平成14年11月に総長に就任しました。平成16年の国立大学法人化に向け組織体制づくりなどに尽力。法人化した同大学の初代総長を平成18年まで務め、平成19年の大学創立100周年に向けた記念事業の準備や教育環境の整備にも手腕を発揮しました。

平成19年4月から独立行政法人大学入試センター理事長、25年4月に同センター名誉教授に。このほか、社団法人脳神経外科学会初代理事長、日本学会幹事、文部科学省参

与などの要職を歴任してきました。

当財団では平成25年から常勤の最高顧問として活躍しています。渡邊理事長とは、同じ脳外科医として40年以上も前から互いに存在を認め合ってきた仲で、特に脳卒中克服という共通の思いから親交が深まりました。

2事業所先行オープン

梅ヶ丘拠点整備事業 東京リハビリ世田谷

(一財)脳神経疾患研究所と社会福祉法人南東北福祉事業団が東京都世田谷区の旧都立梅ヶ丘病院跡地に建設を進めている「東京リハビリテーションセンター



二つの事業所の開所を記念し行われたテープカット

平成23年に東日本大震災・東京電力第一原発事故が発生し、自分のこれまでのキャリアが被災地のために役に立つのであればと、財団最高顧問を引き受け、総合南東北病院を中心とした財団の事業を指導しています。

吉本氏は叙勲について「この上ない名誉で、多く

の方のお力添えがあったからこそと感謝しています。今後も総合南東北病院などを通して地域の人のために力を尽くしたい」と語っています。

渡邊理事長も「吉本先生の叙勲は当グループにとっても大変名誉なこと。今後ともご指導ご協力をお願いします」と祝福しています。

世田谷(仮称)の「居宅介護支援センター梅ヶ丘」と「ヘルパーステーション梅ヶ丘」が5月1日(火)、先行オープンしました。場所は梅ヶ丘開設準備室がある自然センタービルの4階フロアで、同日午前9時半から開所式が行われました。

開所式には関係者約20人が出席しました。財団の渡邊文博常務理事が「新たな事業に期待するとともに責任の重さを痛感していま

この後、渡邊常務理事、菊地常務理事、三浦課長、鈴木正梅ヶ丘開設準備室統括事務局長がテープカットを行いました。居宅介護支援センター管理者の河田敦子さん、ヘルパーステーション管理者の川畑千恵徳さんが事業所開設にあたって抱負と決意を述べました。

両事業所は管理者を含め合計4人のスタッフでスタートしました。東京リハビリテーションセンター世田谷が来年4月にオープンするのに合わせセンター内に移転します。

す」とあいさつ。事業団の菊地弘常務理事は「区民のために地域に根差した事業を進めます」と述べ、世田谷区の三浦与英梅ヶ丘拠点整備担当課長もお祝いの言葉を贈りました。

同センターは鉄筋コンクリート造り8階建てで延べ床面積約1万5400㎡。世田谷区の梅ヶ丘拠点整備事業で、区のプラン公募に南東北グループの提案が採用され、設置・運営を託されました。